谷戸の風 ㊿

歩くということ

山内静夫

歩く、ということは、人間の行動の原点、基本だと思う。それが出来なくなった。この稿では何度も書いているが、五年程前の脳梗塞以来、歩行が不自由になり、どんどんその思いが強くなっていく。

年をとってくると尚更歩くということの行動半径が狭くなるからその思いは強まってくる。若い頃のことを脳裏に思い浮かべると、歩いている自分の姿が何故か出てくる。誰と一緒にいたか、どこへ行ったか、行動のすべてが蘇ってくる。

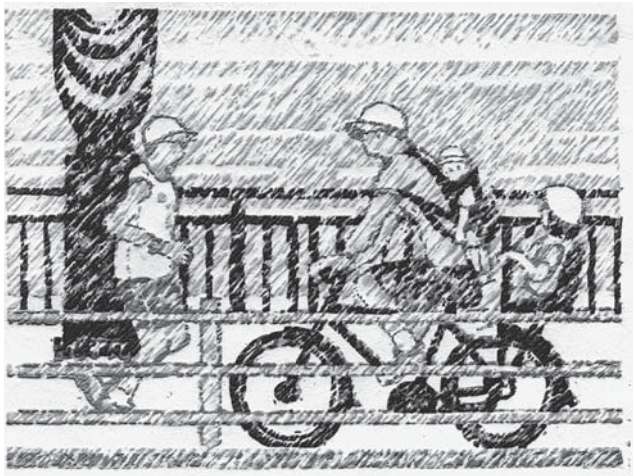
私の人生の前半は、殆ど小津先生について動いていたと言っても言いすぎではない。先生は明治の終りのお生れだから足は強かった。未だ自動車など日常の生活にはなかったから当然と言えば当然かもしれない。

ロケハンで、蒲田から歩き出し、ファインダーであちこちポジションを考えながら歩いていたらいつの間にか新橋まで来ていたという話もある。神経を集中して歩いておられるのだろう。何事によらず集中して、丁寧にというのが、小津先生という人の信実なのかもしれない。

先生の歩き方は、比較的ゆっくりである。急いで速足になるとか、まして走る等はなさらない。日常の街歩きでも、あちこち通りの店をのぞきこんだりしながら、楽しんで歩いている風情である。自然をというか、世の中を愉しんでいるように見える。

然し実はこうした間にも先生の観察眼は休んではいない。常に映画作家としての眼を瞠いている。そしてそれが、いつか何処かで、ご自分の作品の中で活かされているのだろう。そんな顔は一切見せず、ひとをからかうような冗談口を叩いている。

やさしい目をした怖い人だったと、今さらのように思うのである。



木版画　藤本宿

文学つれづれ ⑮④

『桃太郎と一寸法師』（10）

赤羽根龍夫

行く川の流れと人の世の定めなさを重ね合わせた長明は、最初の川の哲学者と呼んでもいいであろう。

『方丈記』には養和二（1182）年、前年から続いた飢饉に疫病が続いて鴨川の河原には餓死したものの死骸がおびただしかったことが書かれてある。その中には死んだ母親の乳房を吸い続ける赤ん坊の姿など多くの幼な子がいたという。

日本人の無常感の形成には四季の移り替わりと共に、四季と同じよう日本の風土の特色である縦横に流れる川が深くかかわっていると思われる。

樋口清之の『日本女性の生活史』によると、堕胎は「もどす」「かえす」「間引き」などと言われ、一部の限られた現象として戦国時代から行われていたが、江戸時代になると次第に全国的にひろまり、「山家の土民、子を多く生むもの、はじめの一人二人を育てれば、末は皆はぶくと言いて殺すこと多し、ことに女子は大かた殺すならわしの村里あり」と言われたり、俚謡に「もしもこの子が女子なれば、むしろにつつみ縄をかけ、前の小川にすっぽんぽん、下から雑魚がつつくやら、上から鳥がつつくやら」と歌われていたほどだったという。わが国の子捨ては稲村博が『子殺し』の中で、古代からたくさんの子殺しや捨て子があったことを伝えている。

伝土佐広周筆「長明法師画像」神宮文庫蔵＝「方丈記（全）」角川文庫より

しかし、遠く神話の時代に遡って興味深いのは、『古事記』にみられる日本民族の神話的祖先ともいうべきイザナギの尊とイザナミの尊の話であろう。二柱の神は海の上に脂のように漂うものの中に矛を突き下してぐるぐるとかき混ぜて島を作った後、国を生もうとするが、先に女性のイザナミが「あなにやしえ　おとこを」（ああなんとみめ麗しい男でしょう）と声をかけたために、骨のない水蛭（ひる）にも似た水蛭子が生まれてしまい、葦の葉を編んで作った葦船に入れられ流し捨てられてしまう。次に生まれた淡島も軽んじられ憎まれ子供のうちに数え入れられなかったという。日本の神話の最初に、流し捨てられた水蛭子の話があることに私は強い興味を覚える。神話的に言うならば、我々日本民族の長兄は捨て子だったと言えよう。しかし人類の始祖が捨て子であるというイメージは、日本に限らず世界各地の神話や英雄伝説の中に見出されるのである。ヨーロッパ文明の一つのルーツであるキリスト教の旧約聖書にもそれが見られる。

創世記によれば、人類の始祖アダムとイヴは禁断の木の実を食べてしまったために神によって楽園を追放されたし、アダムとイヴの長子カインも弟アベルを殺してしまったために神から追放され地上の放浪者とならなければならなかった。カインもまた捨て子であったと言えよう。

ヨーロッパ文明のもう一つのルーツであるギリシア文明の主神ゼウスもまた捨て子であったという。カール・ケレーニイの『神話学入門』によれば、ヨーロッパやアジアの民間伝承には広く「孤児とその子の遺棄というモチーフ」があるという。「孤児というのは童子神の先駆」であり「童子神は多くは置き去りにされた捨て子である。

（神奈川歯科大名誉教授）

「子ども食堂」で地域共生社会づくり

鎌倉市社会福祉協議会

夏休み中の子どもを見守ってほしいとの要望を受けて、誰でも立ち寄れる食堂を提供しようと8月14日、鎌倉市福祉センターで鎌倉市社会福祉協議会主催の子ども食堂が開かれた。子どもや高齢者ら約20人が参加し、「男の料理教室」会員約20人、鎌倉手話サークル「笹りんどう会」などのボランティア14人が社協職員7人とともに昼食のテーブルを囲んだ。

渡辺公子さん指導の「男の料理教室」代表・梅澤待喜さん（67）を中心に会員たちが献立を考え、調理に当たった。

武井望くん（小学4年）は友だちといっしょに慣れた手つきでサラダづくりのお手伝い＝写真。ドライカレー、サラダ、野菜スープ、フルーツポンチができ上がり、差し入れでナスとカボチャの素揚げ、ジャガイモの塩ゆでもできた。参加者たちは周りの人との会話を楽しみながら食事をした。

逗子海岸をきれいに

ミスキャンパスが企業とコラボ

各大学のミスキャンパスらが企業と連携し様々な社会活動やマーケティングなどを実践するプロジェクト「キャンパスラボ」が8月6日逗子海岸でビーチクリーン活動を行った＝写真。

イチジク製薬とのコラボレーションで「海も腸もきれいに！」を合言葉に呼びかけを行い、7、8月の2回で約150人がごみ拾いに協力した。

プロジェクトメンバーは約20人。安全で快適な逗子海岸の実現と腸の健康をテーマに、行政や企業と社会課題に向かい合う経験を重ねてきた。

今回は3人のメンバーが炎天下の浜辺で受け付けをし、合言葉の入ったビブスやごみ袋、トングなどを参加者に配布、自らもごみを回収した。社員連れで参加したイチジク製薬の齋藤慎也社長は「逗子海岸はファミリービーチで、若い世代へ健康の大切さやイチジク浣腸の有効性をPRできる良い機会になった。皆がごみ拾いに協力的で驚いた」と評価した。（K）

約2百首を奉納

実朝祭短歌大会

神奈川県歌人会の主催の第66回実朝祭短歌大会が8月9日、鎌倉の鶴岡八幡宮直会殿で開かれ約160人が参加した。歌人・尾崎左永子さんの講演「頼朝の歌・実朝の歌」があり、歌会で講評と156首のうち上位18人に賞が授与された。

鎌倉朝日賞は村上公子さん「西日差す窓にゆらゆら葉の揺れて読みゐる本に影絵を描く」。

主な入賞者次のとおり。

鶴岡八幡宮賞＝由田欣一（藤沢）▼県知事賞＝柴山雅子（鎌倉）▼県歌人会賞＝工藤径子（川崎）▼市長賞＝金井千霽（鎌倉）▼市議会賞＝山内晟子（藤沢）▼市教委賞＝内藤美也子（鎌倉）▼市観光協会賞＝重田美代子（平塚）▼鎌倉商工会議所賞＝藤田絹子（横浜）▼現代歌人協会実朝祭短歌賞＝大久保暁枝（藤沢）▼日本歌人クラブ賞＝中村泰子（横浜）▼鎌倉朝日賞＝村上公子（座間）

（敬称略）

鎌倉朝日歌壇

香山　静子　選

五時半は神社の太鼓六時には龍口寺の鐘　海は目覚める　片瀬　中村　香

日常から切り取っていながら結句に新鮮味がある。

カブト虫は力尽き果て転がれど栗色の背は覇者の風格　葉山町　近藤美知子

第五句の把握が優れていて深さがある。

落日に直撃された非常口のガラスはまぶしく人寄せつけぬ　藤沢市　青木寿美子

人間社会の暗喩ともとれる魅力的な一首。

村一番の漁師といわれし養父の精霊船一直線に沖をめざせり　大船　小笹岐美子

友よりの暑中見舞ひの片隅にリハビリ中と書き添へてあり　今泉台　下田　和夫

山頂をめざして登る松明は途切れる間なくゆらめき浮かぶ　葉山町　近藤　純

強健が取柄のライフセーバーの肌にまつはる光のシャワー　金沢区　岩澤　正春

口笛に集ひきたりて餌をねだるいとしき友の目高の親子　辻堂　柳　蒼柳

本日の梅雨の明くるを祝ふごとここ鎌倉は花火大会　七里ガ浜　嶋　尚久

西空の大夕焼に映されし吾の一日の大きな満足　管目町　出蔵かおる

青田から線香花火に似たる穂が無事に稔れと語りたる朝　城廻　塩田　文子

鎌倉朝日俳壇

星野　高士　選

〈天〉ひと雨を力に蝉のこゑ高し　常盤　片岡　和子

雨を力にしたところが発見。表現も的確。

〈地〉大花火散りて侘しき海の果て　管目町　出蔵かおる

海の果てで夜の中の明暗が伝わってきた。

〈人〉足許に蝉のぬけ殻空は青　腰越　大川　昭子

足許から空の青までの天地を余すことなく詠えた。

大昼寝してわが命充電す　玉縄　篠田　祥子

こういう昼寝の使い方もありましたね。

朝晩の経を欠かさず生身魂　鶴沼桜が岡　一色千穂子

生身魂の季語が実に力強さを加えた。

朝空の隅なく晴れて夏が来ぬ　川名　槇野あさ子

やはり立夏の広がりが清々しい。

夏の宴逗子マリーナは夢一夜　材木座　羽賀　一男

夏草の永福寺側虚子碑有り　岡本　森田　孝

千年の榧の洩れ日の涼しかり　城廻　小美野京子

祝事なき日々の草活け水引も　逗子市　佐藤　信子

釣忍たっぷりの水入遠し　植木　風見　玲子

油照光肌さす石畳　腰越　松原　薫

てんとう虫私の肩でひと休み　大町　堂谷　妙子

朝霧をまといて動く牛の群　大船　添田　洋子

鎌倉の竹林道や風涼し　手広　高口　道宏

五月闇しんと鏡花の池を抱き　逗子市　塩谷あい子

踏切の閉じて奇立つ玉の汗　栄区　青木　努

名を変へて貴へぬへくそかづらかな　金沢区　岩澤　正春

山百合の香る一輪洗面所　今泉　小林　孝子

新涼や植木鋏の音澄みて　逗子市　犬丸　節子

鎌倉朝日 発刊協力グループ 朝日新聞サービスアンカー

ASA鎌倉小町販売　大町一―一―一四　☎22―3236
ASA鎌倉中央　長谷二―一―九　☎22―1004
ASA北鎌倉　山ノ内七四八　☎45―4509
ASA鎌倉深沢　常盤二四七―二　☎31―1444
ASA大船西部　玉縄一―一四―一　☎46―6068
ASA大船南部　大船二―二三―一六松栄ビル3F　☎38―7322
ASA大船中央　大船二―二三―一六松栄ビル3F　☎38―7322
ASA腰越　藤沢市鵠沼藤が谷二―一―二三　☎0466―27―8716
ASA藤沢南部　藤沢市鵠沼藤が谷二―一―二三　☎0466―27―8716
ASA藤沢東部　藤沢市弥勒寺三―二二―一一　☎0466―22―7409
ASA鵠沼東部　藤沢市鵠沼桜が岡三―六―一八　☎0466―25―7110
ASA鵠沼西部　藤沢市鵠沼海岸二―一―一一　☎0466―34―6924
ASA片瀬　藤沢市鵠沼海岸二―一―一二　☎0466―34―6924
ASA逗子　逗子市久木一―一―一一　☎046―871―2368
ASA東逗子　逗子市沼間一―四―四　☎046―871―6845
ASA葉山　三浦郡葉山町堀内一八〇八　☎046―875―0515
ASA金沢八景　横浜市金沢区六浦一―二―一三　☎045―782―2859
ASA大船北部　横浜市栄区笠間四―一―九　☎045―891―0986